

2006年スケジュール

2006年6月22、23日

厚生労働省全国油症治療研究会議

ホテルレガロ福岡に於いて開かれました。

全国一斉検診

(詳しい日程は各自治体にご確認ください)

長崎県：7月中旬

福岡県：9月・10月

広島県：10月

その他の自治体にお住まいの方は下記の各自治体にお問い合わせください。

油症検診

油症患者さんの治療は長期間にわたる経過観察が必要です。症状や身体異常の経過をみるために、油症患者さんを主な対象に毎年油症検診が実施されています。この検診は未だ、症状のある油症患者さんだけでなく、症状が軽快している油症患者さんにとっても非常に重要な検診です。年一回の油症検診は必ず受診しましょう。検診の詳しい日程についてはお住まいの各自治体に確認してください。各自治体の連絡先は下記のとおりです。

新しい油症の治療

現在、油症患者さんの体内のPCBやダイオキシン類濃度は健康な人と同じ程度まで低下している方もいらっしゃいますが、まだ高い濃度を示す方もたくさんおられます。治療法としては、原因物質であるPCBおよびダイオキシン類の排泄を促進するのが最も効果的ですが、残念ながら現在のところ確実に有効な排泄促進剤はまだ見出されていません。当研究班では以前、コレステロール低下剤のコレステラミンの経口投与がPCBの排泄を促進させる可能性を明らかにしました。そこで、今後はダイオキシン排泄を促す**コレステミド**を用いた臨床試験を開始する予定です。

“油症”に対する漢方薬の臨床試験参加者募集中！

2005年10月から油症患者さんを対象とした、漢方薬の臨床試験を開始しました。この臨床試験への参加は油症患者さんの自由ですので参加したいと思った方のみ試験を受けることができます。この臨床試験では、4種類の漢

方薬が油症の症状を改善できるかを試します。4種類の漢方薬は今まで保険診療でも使用され、安全性についての情報が十分得られているものです。その4種類から、それぞれの油症患者さんの症状に一番あっている漢方薬を、一人に2種類まで選択し、1種類を半年間ずつ内服する方法を採用しています。現在、18名の希望者について試験が行われています。最初に行った10名の患者さんについては特に大きな副作用は認められておりません。中には関節症状がよくなったとおっしゃる患者さんもおられます。試験手続きの関係上、さまざまな制約がありますが、興味のある方は班長の古江（092-642-5582）へ電話ください。折り返しお電話します。参加をお待ちしております。

最新の研究成果

油症患者さんには赤ワインがおすすめかも！

6月22、23日に開催された油症班会議において、今後の油症治療に有益と思われる薬剤や、油症患者さんに特異的な検査法などが報告されました。そ

平成18年度自治体連絡先

福岡県 ■ 行政 ■ 福岡県班 (福岡、大分、宮崎)

担当：福岡県保健福祉部生活衛生課

食品衛生係

電話：092-643-3280

長崎県 ■ 行政 ■ 長崎県班 (長崎、佐賀、熊本)

担当：長崎県県民生活部生活衛生課

食品乳肉衛生班

電話：095-895-2364

関東以北班 (東京、川崎、埼玉、さいたま、茨城、長野、横浜、神奈川、栃木)

担当：栃木県保健福祉部生活衛生課

食品衛生担当

電話：028-623-3109

千葉県班 (千葉)

担当：千葉県健康福祉部衛生指導課

食品安全対策室

電話：043-223-2638

愛知県班 (岐阜、静岡、愛知、三重)

担当：愛知県健康福祉部健康担当局

生活衛生課食品安全対策グループ

電話：052-954-6297

大阪府班 (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)

担当：大阪府健康福祉部食の安全推進課

食品衛生グループ

電話：06-6941-0351

(内線2563)

島根県班 (島根、鳥取)

担当：島根県健康福祉部薬事衛生課

食品衛生グループ

電話：0852-22-5264

広島県班 (広島、岡山)

担当：広島県福祉保健部保健医療局

生活衛生室

電話：082-513-3097

山口県班 (山口)

担当：山口県環境生活部生活衛生課

食の安心・安全推進班食品衛生グループ

電話：083-933-2974

高知県班 (愛媛、高知、香川)

担当：高知県健康福祉部健康づくり課

電話：088-823-9678

鹿児島県班 (鹿児島、沖縄)

担当：鹿児島県保健福祉部生活衛生課

食品衛生係

電話：099-286-2786

の中の一部を紹介します。

- 1) 検診を受けた油症患者さんの症状のうちPCDFと関連が深い症状は頭重頭痛でした。また、PCBと関連が深い症状は眼症状（目やにが多い）、PCQと関連が深いのは口腔内の色素沈着である可能性が示されました。また、PCDF濃度が高い患者さんに関節痛で困っておられる方が多く、これから因果関係を調べます。
- 2) 全国一斉検診受診者を対象に行っている血液中PCDFの測定は油症から38年経過しても依然として高濃度（平均値で一般人の約10倍程度）であることが判りました。また、女性のほうが男性よりもより高い濃度を示す傾向がみられました。
- 3) PCBの代謝過程で**スーパーオキシド（トピックス参照）**が産生され、油症患者さんでは慢性的な酸化ストレス状態と考えられています。長崎大学の清水先生らは慢性ストレス状態を示す血液中の2種類のマーカーを油症患者さんと一般人とで比較検討したところ、油症患者さんと一般人とで差が認められませんでした。
- 4) 九州大学の徳永先生は油症相談員が一昨年行った婦人科アンケートをまとめた結果、油症発症後10年間は発症前10年間と比べ、早産、自然流産、人工中絶の割合が増加したこと、また出産した子供の性比には差がなかったことを示しました。
- 5) 基礎的実験において九州大学薬学部の山田先生らはダイオキシンと生殖機能との関係について検討され、性腺刺激ホルモンにダイオキシンが作用することを明らかにしました。同教室の石井先生らは動物実験においてレスベラトロールというポリフェノールの一種を経口接種させることでダイオキシンの作用を一部軽減することを示しました。レスベラトロールは赤ワインに含まれるポリフェノールの一種です。

油症相談員の活動

油症患者さんやその家族の方の病気に対する不安や生活など様々な悩みに対応できるようにと2002年から動員されました。油症相談員の聞き取り調査により、カネミ油症による健康への影響の実際が明らかとなってきました。今年度から健康調査をもっと充実させていきます。お忙しいとは思いますが、アンケート調査に是非ご協力ください。

油症と疾患

2006年度は油症患者さんに既往歴、特に、がん、高血圧、糖尿病、心臓病などの疾患を調査しました。また、同時に現在の骨粗鬆症の症状の有無についてアンケート調査をしました。568名の患者さんにアンケート調査に協力していただきました。がんについては胃がんの罹患者がもっとも多く、また、半数以上の患者さんには何らかの骨粗鬆症の症状があることがわかりました。

今後も、油症相談員は油症患者さんの相談にのると同時にこのような聞き取り調査を行い、ダイオキシン類の人体への影響を明らかにしていこうと研究班では考えています。なお、油症相談員へのご相談、お問合せは右記の各担当相談員にご連絡ください。

トピックス

スーパーオキシドは、白血球、マクロファージなどの細胞でも生成され、ヒドロキシラジカルやペルオキシ亜硝酸を生じることにより、病原菌など殺菌の重要な役割を担っている反面、DNAの酸化的損傷やある種の酵素の不活性化、脂質の過酸化など、突然変異や細胞障害の原因となることから、がんや老化への関与も提唱されている。

この新聞は油症治療研究班と患者さんをつなぐ架け橋です。事務局まで、皆様の声をお寄せください。個人の秘密は守ります。ただし、匿名のみの投書はお断りします。

油症と油症治療研究班

1968年に福岡県・長崎県を中心とする西日本一帯で多発し、これまでに1892人の油症患者さんが確認されています。油症患者さんの大多数は1968年2月上旬に製造出荷されたカネミ・ライスオイルを摂取しており、この特定時期に製造・出荷されたライスオイルに、大量のカネクロール（PCB：ポリ塩化ビフェニール）が含まれていることがわかりました。さらに油症患者さんの分泌物や皮下脂肪等からもカネクロールが証明されました。その後の研究の結果、有毒なライスオイル中にはPCBが約0.1%存在するだけでなく、PCBが加熱されたために変化して生成されたPCQ（ポリ塩化クアターフェニール）が約0.1%、非常に毒性の強いPCDF（ポリ塩化ジベンゾフラン）が約0.0005%混在し、油症はPCBとこれらPCB関連化合物（ダイオキシン類）の複合中毒による症候群であり、PCDFがその主原因であることが明らかになりました。現在、ダイオキシン濃度を加えた新しい診断基準に沿って、年一回、未認定患者さんの認定の是非を決定する会議を開いています。また、その会議に必要な検診を年一回、各自自治体で行っております。油症の原因解明のために結成された当研究班ですが、原因はほぼ解明されてきました。しかし、ダイオキシンを排泄させる治療法はまだ見つかっていません。現在では当研究班は治療法の開発を目指して、基礎研究を行い、実際の患者さんの診療にあたっています。

油症相談窓口一覧

全国油症治療研究班事務局

場所：九州大学医学部皮膚科教室
（〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1）
電話：092-642-5582
FAX：092-642-5600
担当：医師 古江増隆（研究班長）、
医師 柴田智子（事務局長）、
浜田（秘書）
ホームページ：
<http://www.kyudai-derm.org/yusho/index.html>

油症相談員（2006年7月現在）

健康相談につきましてはご連絡下さい。

- 看護師
飯尾 靖枝（いいお やすえ）
電話：090-4475-2451 福岡県在住
- 准看護師
只熊 幸代（ただくま さちよ）
電話：080-1714-9227 長崎県在住
- 看護師
山根 美喜子（やまね みきこ）
電話：080-1922-0980 広島県在住

油症外来（予約制）

場所：九州大学病院皮膚科
日時：毎週水曜日 14:00-16:30
（電話予約をお願いします。）
電話：092-642-5597

長崎県■油症研究班

場所：長崎大学医学部皮膚科教室
（〒852-8501 長崎市坂本1-7-1）
電話：095-849-7333
FAX：095-849-7335
担当：医師 佐藤伸一（研究班長）、
医師 清水和宏